音モダチ・プロジェクト　被災地活動
2012/12/13ー15

昨年はクリスマスどころではなかったであろう東北の皆様にコンサートのクリスマスプレゼントをお届けしたい！と訪問させて頂きました。今回は再訪のところ、そしてご紹介頂いたところへの訪問となりました。震災から１年９ヶ月。皆さんはいかがお過ごしなのでしょう。街の様子は変わったのでしょうか。

初日、まずはじめにお伺いしたのは昨年７月に訪れた宮城県七ヶ浜町の汐見台幼稚園です。子ども達にサンタさんと仲間達からコンサートのプレゼントです。クリスマスナンバーをはじめ童謡など演奏しました。みんな一生懸命大きな声で歌ってくれました。小さい子達も沢山心に抱えています。そしてその純真な姿には心打たれます。また来てねと声かけてくれました。ありがとうございました。

サンタさんの登場です！

園長先生を囲んで。

子ども達の元気いっぱいの笑顔！

塩釜に移動、冬道に備え車を四駆のスタッドレス車に乗り換えました。この日は塩釜に宿泊。昨年４月に初めて代表の池田が被災地を訪問した際に塩釜の避難所で取り仕切っておられた方と再会。お二人とも当時の事を思い、感慨深く再会を果たしました。震災当日のこと、その後の様子など沢山お話を伺わせて頂きました。
翌朝は早くに出発、一路岩手県の陸前高田を目指します。途中、南三陸町を通りました。道路は走り易くなってはいるものの夏に訪れた時と変わらない、瓦礫を取り除いただけの土台が残る光景が広がっていました。「ご先祖様も立ち上がった、私たちにもできる」と書いた看板がありました。

午前中はオートキャンプ場が仮設住宅になっているモビリアさんの集会場での演奏です。図書館も併設されており、地域の方々も訪れる場所となっています。また、移動カラオケ車が来ていました。老若男女様々な方がいらして下さいました。こちらで行われるイベントによっては参加される方が固まってしまうところ、コンサートはいろんな方が集って下さっていた、と仮設をまとめるNPOの方がおっしゃっていました。どなた様にも楽しんで頂け、少しでもお心に届く事が出来たならこんなに嬉しい事はありません。

モビリアの皆さんと。

午後は夏にも伺わせて頂いた東部デイサービスセンターでの演奏です。夏にお見かけしたお顔もあり、皆さん熱心に聴いて下さっていました。職員の方から、「お年寄り達は強いです。昔の津波を経験され、戦中戦後の大変な時を乗り越えてこらえた方々。今の方が恵まれている、と言われている。」というお話を伺いました。確かにそういう事も言えるのかもしれません。昔の方が復旧、復興には今にもまして大変だったでしょうし、何もなくなってしまったところから皆さんが苦労して築き上げてこられたものです。どんな先が見えない、いつになったら元の生活に戻れるのか、という不安をもっていると言っても当時を思えば今の方が恵まれている・・・そう思われているとは、なんと強いのでしょう。
穏やかに生活を送ってもらえる事が出来ればよいものの、お年をめしてまで試練を与えられ・・・でも人は乗り越えて生きていけるのだと若い人たちに教えて下さっているのですね。

東部デイの皆さんお元気で！

高田の津波被害にあった建物がまだ残っていました。

夜のライブまでの間に新聞記事を掲載して下さった東海新報社を訪問させていただきました。
地元密着の新聞社で、どなたにも身近な情報が届くように、情報の格差が無くなるようにと日々新聞を作られているそうです。
夜は大船渡のジャズカフェサロンh.イマジンさんでのライブです。東京のピアニストで被災地での活動を精力的にされている川村さんからのご紹介で行わせて頂く事になりました。ステキなお店ですが、陸前高田にあったお店は津波により全てを失ってしまい今年３月に大船渡に再興。全国からレコードやCD、音響システム、スピーカーなどなど寄せられたそうです。
お店の常連さんをはじめ大船渡の方々がいらして下さいました。皆さんとともに楽しいひとときを素晴らしい空間で過ごさせて頂きました。マスター、お客様から沢山お話も伺わせて頂きました。
当時は無我夢中で全く余裕がなかったけれど、１年９ヶ月経ち今となって寂しさ、辛さが込み上げてくる、とお話し下さった方もいらっしゃいました。ブームのように来ていたボランティアも数が減り、本当に思ってくれているのはずっと継続して来てくれる人だ。と言われる方もありました。

お洒落なお店です

ビンテージもののピアノとh.イマジンマスターと。

最終日。今回の訪問最後は大船渡中学校のグランド内にある永沢仮設住宅の集会場での演奏です。
気さくな自治会長さんが取りまとめていらっしゃいました。たくさんお集まり頂きました。
皆さんとともにおぢゃっこ（お茶）もいただき語らいのひとときを過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

永沢仮設住宅の皆さんと。

がんばっぺし！！東北！

１年９ヶ月が過ぎ、考えも、感じることも、意見も、人により様々だと伺いました。それにより辛い思いをされている方もいらっしゃいます。
しかし、ご苦労があるにもかかわらず、どうしたら少しでもよい生活をしていけるのか、ということに向かって懸命に生きていらっしゃいます。
そして最近では「支援」から「協同」という方向に変わってきているそうです。
～ともに心と力をあわせ、助け合って行っていくこと。
被災地が復興していくためには、もう支援ではなく、一緒にお互いに何が出来るかを考え、行動していく事により、街も人も笑顔になっていけることが重要なのでしょう。
また、私たちの活動を支えて下さる多くの方々、赤い羽根共同募金ボラサポの助成などのおかげでこの活動も行う事が出来ています。
たくさんの方のお心に感謝致します。
これからも被災地の方々が心から笑顔になれる時まで共に活動をしていきたいと思っています。

音モダチ・プロジェクト
2012/12/13ー15